

コミュニティの弱体化

- ・地域のつながりが薄れている。
- ・近所のコミュニケーションができない。
- ・気軽に集まれる場所がない。
- ・地域(横)の情報が入ってこない。
- ・自治会に加入する人が少ない。脱退する人がいる。
- ・自治会の役員をする人がいない。
- ・子供会、シニアクラブが衰退している。
- ・家庭内も問題が表面化してこない。

生活環境の不安

- ・気軽に集まれる場所がない。
- ・公共交通機関が不便。
- ・自家用車以外で買い物に行く手段がない。
- ・食料品店、病院、ガソリンスタンド等が近所になく不便。
- ・空き巣、車上狙い等の犯罪の多発。
- ・空き家の放置
- ・ペットの飼い方(マナー)が悪い。
- ・介護施設が不足している。

福祉サービスへの理解・不満

- ・どこに相談したらよいか分からない。
- ・近所の問題(高齢者、子育て、DV、引きこもり)の状況を誰に伝えてよいか分からない。
- ・困っている高齢者等にどのように対処してよいか分からない。
- ・高齢者が外出、社会貢献する場(機会)がない。
- ・子育て世代への支援が少ない。
- ・どんな制度やサービスがあるか分からない。

基本理念・目標設定の方向性

※誰にでもわかる、伝わりやすい言葉で明瞭簡潔なものとしています。

基本理念について

市では、地域住民同士のつながりが薄れ、地域社会のあり方が変わりつつある中で、地域に暮らす人々が、暖かい思いやりの心を取り戻し、人として生きがいを持ち、お互いに支えあることのできる太い「絆」で結ばれた「幸福度の高いまち」、「生きとし生けるものがつながって暮らすまち」を目指しています。

本計画においては、制度の谷間にある人、制度外のニーズ、複合的なニーズに対応するため、「地域で生活している人にしか見えない地域の生活課題、身近でなければ早期発見が難しい」地域の課題を地域で共有し、地域住民が主体となり解決に取り組む、地域福祉の担い手づくりを目指します。

【キーワード】

地域資源、地域力、交流、気づき、知る、つながり、参加、支え合い、集まる場、伝える、おせっかい、イベント、意見交換



基本理念・目標設定の方向性

誰にでもわかる、伝わりやすい言葉で明瞭簡潔なものとします。

基本目標について

- 基本理念を踏まえ、アンケート調査等で見えてきた課題に対する方向性の整理を行う。
- 「第5次長久手市総合計画」、「新しいまちづくり行程表」で定めた方向性を前提として目標設定を行う。
【第5次長久手市総合計画】
基本方針3 人がいきいきとつながるまち
『基本施策6 地域で支え合う福祉の仕組みをつくる』
【新しいまちづくり行程表】
フラッグ2 あんしん「助けがなかったら生きていけない人は全力で守る」
『政策14 障がい者でも要介護でも認知症でも大丈夫』
- 地域福祉計画、地域福祉活動計画を一体的に策定するため、具体的な取り組み(事業)との整理を行う。

基本理念

「気づき、つながり、支え合う、
たつせがあるまち ながくて」

基本目標

- 1 みんなが「**気づく**」きっかけ、場があるまち
- 2 みんなが「**つながる**」楽しさを知るまち
- 3 みんなにサービスが「**届く**」安心なまち
- 4 みんなで「**支え合う**」喜びを知るまち
- 5 みんなに「**たつせがあり**」成長できるまち

事業事例

【新規事業】「見守りサポーター ながくて」養成事業

【事業の内容】

ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯の見守り、安否確認を行う「見守りサポーター ながくて」を養成し、新しい見守り体制を図ります。

【現在のようすと問題点】

お元気で趣味や生きがいを持つ高齢者、介護保険制度を利用している高齢者のいずれにも該当せず、制度の狭間にいる閉じこもりがちな高齢者が全国的に増えつつあります。現在、長久手市は日本で最も平均年齢の若い市ですが、数年後には他市を上回る急激なスピードで高齢化が始まります。

そこで、必ず来る高齢化に向けて、地域で地域の方がお互いに支えあえるような仕組みを立ち上げました。

【これからの取り組み(改善策)と期待される効果】

サポーターが増えていくよう「見守りサポーター ながくて」の養成講座を、毎年開催するよう努めます。

見守りサポーターが増えることで、ひとり暮らしの高齢者の安否確認ができるばかりでなく、困っていても相談に行けなかった方や、今後見守りが必要になると思われる方のニーズを早く、生活に拾い上げることができるようになります。

事業事例

【新規事業】つどい・サロンの助成事業

【事業の内容】

身近な地域で、①仲間との交流や意見交換 ②生きがいつくりや勉強会をきっかけに「高齢者の閉じこもり、孤立の防止、健康増進」を目的とした団体の活動を支援します。

【現在のようすと問題点】

アンケート結果では、『高齢期の希望』として「何もしないでのんびりと過ごしたい」は、1割もなく、ほとんどの高齢者は趣味・就労・ボランティア・知識向上・健康増進などに興味を持っていることがわかりました。

しかし、これまでは、健康づくりや生涯学習など「福祉の家」での事業の充実を図ってきたために、交通手段のない方や閉じこもりがちの方が気軽に参加できる場所づくりを支援する仕組みがありませんでした。

【これからの取り組み(改善策)と期待される効果】

近所でつどいながら、知識向上や健康増進を行える集まり(サロン)の活動に対して助成金を提供することで応援します。

また、こうした「高齢者の閉じこもり、孤立の防止、健康増進」を目的とした団体が、継続して増えていけるようサロンの立ち上げをお手伝いしたり、運営の相談に応じていきます。

事業事例

包括的・継続的ケアマネジメント業務

【事業の内容】

高齢者等の入退院時に本人や家族の意向をもとに、病院にも相談員やサービス事業者などと連携して必要なサービスの提案や利用調整を行い、安定した生活ができるように支援しています。

【現在のようすと問題点】

退院時に病院の相談員からの相談や連絡から始まるケースが多く。平成24年度は約100件の相談がありました。退院までの限られた時間での早急な対応や、介護保険の認定が決まるまでの相談も多く、先行してサービス利用の調整やケアマネージャー探しを行うなど、時間的にも内容的にも労力を必要とする業務となっており、担当職員の負担が大きいのが現状です。

【これからの取り組み(改善策)と期待される効果】

職員の経験をつむこととスキルアップに努めることで、より迅速な対応ができるように努めます。また、病院の相談員との連携が重要な業務であるため、病院との連携をより強化にする必要があります。

事業事例

地域福祉活動計画の策定と推進**【事業の内容】**

長久手市の福祉施策の向上と推進を目指して、2か年かけて市役所と共同で計画の策定を行いました。

【現在のようすと問題点】

市民の意見を反映できるよう、講演会を〇回、地区懇談会を〇回、事業所ヒヤリングを〇回、民生委員の意見交換会を6回行うなど、多くの方が参加できる機会をたくさん設けて、長久手の現状を把握するよう努めました。

また、社協事業についても時間をかけて自己評価を行い、事業の見直しと改善に努めました。

【これからの取り組み(改善策)と期待される効果】

職員全員が、関わっている事業を見直したことで、課題や改善策を検討することができ、既存事業については、より効率よく業務に取り組むことができるようになり、新規事業については、その必要性を共有することができるようになりました。

事業事例

福祉協力校助成

【事業の内容】

市内の小・中・高等学校に対し、福祉協力校として委嘱し、福祉教育を推進します。

【現在のようすと問題点】

アンケートでは、「現在ボランティアに参加している」「以前参加したことがある」と回答した方は、10代では39%、20代では34%でしたが、働き盛りの30代では22%、40代では22%と少ないことがわかりました。この10代、20代の30代のボランティア経験者が増えると、将来的には、各層での関心度が高ると考えられます。

これまで、社協は各協力校に完全委託し福祉教育を助成したために、助成金の用途もあいまいで、内容もマンネリ化しています。

【これからの取り組み(改善策)と期待される効果】

今後は、効果的で心と記憶に残るような福祉教育をしていただけるよう、社協から具体的な福祉教育の提案や、新しい福祉教育案などを提供していきます。

地域で支えるネットワークのイメージ図

